

西宮歴史調査団ニュース 第10号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944 電話 0798-33-1298

国道2号橋梁調査のエピソード

野川至（橋梁班）



写真1 津門集会所前の親柱群

はじめに

平成21年（2009年）4月から翌3月まで西宮歴史調査団橋梁班の一員として国道2号にある橋梁調査を行った。

ほとんどの橋梁は、河川に架かっているものなので、橋梁調査はすなわち河川の調査と密接な関係があると考えていた。ところが、今回の調査は、国道2号という「道路」との関係から橋梁を調査するという切り口でスタートした。

調査時には、「道路」「河川」「橋梁」の三者にどのような関連がみえてくるのかを考え、「道路」＋「橋梁」＝流通性、「河川」＋「橋梁」＝地域性をそれぞれ探ろうとした。

橋梁班全体の調査は、橋梁の現状記録であったが、私はそれに加えて①道路からみた橋梁、②河川からみた橋梁の2つの課題を設けて取り組むことにした。



地図1 津門川流路と橋梁位置図

そうやって、国道2号とそこに交わる河川について考えながら現地調査を進めた。なかでも、国道2号にある今津橋（地図1参照）とその付近の河川と橋梁の調査に際して色々な発見や出会いがあったので、以下に紹介する。

1. 津門集会所に移設された親柱群

阪急電鉄今津線の高架下にある津門集会所（西宮市津門綾羽町2-31 地図1 ■）の前に古い親柱が8基あることを発見した。この親柱群を見学している時に集会所壁面に利用日程表および集会所利用の問い合わせ連絡先が記載されているのを見つけた。そこで、問い合わせ先となっている津門仁辺町福祉会の中田氏へ電話での聞き取りをおこなった。

以下、中田氏（昭和12年生まれ）からの聞き取りを紹介する。（《 》内は編集時補足）

津門集会所前の親柱群

この石柱群は、現在はすでに暗渠となっている旧津門川の親柱だ。これらは、元の所在地の記録が残っていない。暗渠となった際、各所の親柱は阪急今津駅に集められた。ただし、集められた数量や今津駅の収集場所は、未確認である。そして、津門集会所ができた際に集会所に移動した。それは、平成11年のことだった。

旧津門川

旧津門川は、阪急今津駅の西側の水路から駅の真下にきて暗渠となっている《→地図1 実線のうち最南端部分》。阪急今津線の真下の東側の道路のさらに歩道の下が、旧津門川の暗渠部分である《→地図1 西側点線部分》。歩道下の暗渠を遡上すると、国道2号よりひとつ手前の交差点で、東に迂回する。迂回して数メートル行くと、暗渠から地上へ旧津門川が現れる《→地図1 「いなりはし」付近》。ここから北上して国道2号の手前の駐輪場の下で、再び暗渠となっている。

阪急今津線が複線工事をおこなう際に暗渠になったと聞いた。

津門集会所が出来る前の親柱群

石柱（親柱群のこと）は、津門川が暗渠となった後、集会所ができるまでの長い間、阪急今津駅にあったということだ。

国道2号にある「今津橋」（地図1参照）

「今津橋」は、旧津門川に架かる橋だと思う。

現在の津門川ができた時期

はっきりと覚えていないが、昭和25年頃には現在の津門川はまだなかったと記憶している。「新津門川橋」の架橋が昭和29年なら、現在の津門川ができたのは、それに近い頃だと思う。旧津門川は川幅が狭く、排水の便がよくなかった。特にJRや国道が排水を阻むことがあり、JR以北では浸水の被害が多かった。その対策のために現在の津門川が開削されたようだ。

（調査日：平成21年（2009年）8月16日）

2. 阪急今津線歩道橋下の水路

中田氏から「旧津門川は、阪急今津駅の下西側の水路から駅の真下にきて暗渠となっている。阪急線の真下の東側の道路のさらに歩道の下が、旧津門川の暗渠である」との聞き取りに関して、西宮市下水河川保全課(現水路治水課)へ問い合わせた。すると、今津線歩道下の暗渠が実際に存在することを確認できた。但し、暗渠となった時期は該当課では確認できなかった。

3. 阪急今津駅に親柱群があったこと

同じく中田氏から「暗渠となった際に、各所の親柱は阪急今津駅に集められた」との聞き取りを得たことに関して、今津駅の管理者である阪急電鉄へ問い合わせた。今津駅に旧津門川にかかる橋の親柱があった経緯などについてたずねたが、阪急電鉄広報部からは「施設部ならびに駅担当部門に尋ねましたが、事実について確認できませんでした」との返答であった。

残念だが、親柱群の移動の経緯や点数などについては、不明であった。

4. 「いなりはし」と旧津門川

ここでは、旧津門川の跡を見ることができる「いなりはし」と「いなりはし」が架かる川筋について報告する。なお、ここで紹介する「いなりはし」は、現在の津門川に架かる「稲荷橋」とは別の場所にある別の橋である。「いなりはし」の所在地は、地図1で示した。

(1) 「いなりはし」親柱

調査日：平成21年（2009年）8月16日

所在地：西宮市津門大筒町3-21

備考：親柱に「いなりはし」「昭和五年五月架設」と刻銘があることを確認できた。また、先の中田氏からの聞き取りと合致した川筋となっていることがわかった。

2) 川筋の開渠部分

調査日：平成21年（2009年）8月16日

「いなりはし」から下流の水路は、開渠になっている。ここから東へ約48mの間は開渠がつづく。



写真2 いなりはし全景



写真3（左）いなりはし上流側親柱
（刻銘「いなりはし」）

写真4（右）いなりはし下流側親柱
（刻銘「昭和五年五月架設」）

5. 津門川、重点施工される

ここでは、昭和28～30年（1953～1955年）の津門川改修工事について関連資料から紹介する。

『六甲三十年史』（建設省近畿地方建設局六甲砂防工事事務所編集、昭和49年3月）には、津門川について次のように記載されている。

昭和28年度

28年1月7月兵庫県知事より本川改修工事を追加委託されたことや、地元西宮市との関連もあって、本年度は、津門川を重点施工することとした。

津門川と阪神国道（国道2号線）が交差する箇所の津門川橋（橋長10.456m）に着工し有効幅27.28mのうち、17.33mを施工した。

また国道より国鉄付近までを掘削し、左岸側の護岸工事を行い、その上流につづく国鉄橋梁の改築工事を管理者において施工した。

昭和29年度

本年度においては、昨年度につづき地元西宮市との関連もあって、支川津門川を重点的に行うこととし、仁辺橋より北に向かって、国鉄下流部までを施工した。

工事箇所が、右岸、左岸または、左右岸と点在し、また前年度において護岸工の基礎までを施工した阪神国道の津門川橋（橋長10.46m）は、本年度も続けて工事を行ったが、路面舗装は翌年度に残された。（原文、ママ）

これをみると、津門川の改修工事は昭和28年（1953年）から30年（1955年）に行われていることがわかる。このことは、1で中田氏が「はっきりと覚えていないが、昭和25年頃には川はまだなかったと記憶している」とお話しされていることと一致している。

また、昭和28年以降に津門川周辺では、河川改修ならびに橋梁工事が順次行われた。この一連の改修工事のなかで、排水などにおいて弱点のあった旧津門川に変わって阪急今津線の西を流れる現在の津門川が開削されたと考えられる（両河川の流路については地図1を参照）。

おわりに

今回は、現地調査から10年近くを経た内容を「西宮歴史調査団ニュース」に掲載することにした。このような運びになった理由は幾つかあるが、ここでは割愛させていただきたい。最後になりましたが、聞き取り調査に快くご協力いただいた津門仁辺町福社会（当時）の中田様に心より感謝申し上げます。

【付記】

現在も旧津門川にかかる橋梁のいくつかを確認することができる。このことがきっかけとなって調査報告の場をもうけたのであるが、西宮歴史調査団橋梁班のおもな活動は現存する名称のある橋梁の記録である。とはいっても、調査対象の橋梁がかかる河川の歴史を軽んじるわけにはいかない。今回は、中田様の貴重なお話しに助けられる形で戦後の津門地域の河川と橋梁の歴史を記録することができた。

夙川には「夙川橋」が4つある

小西貞一郎（橋梁班）

はじめに

西宮市を流れる二級河川「夙川」には、名前のある橋が20か所ある。二級河川指定外の上流部分も含めると、夙川に架かる名前のある橋の数は全部で29か所にのぼる。

そのなかに「夙川橋」と名付けられた橋は、4つもある。しかも、この4つの橋の場所をみると、わずか500mほどの間に点在しているのである。

そこで、今回は夙川に架かる4つの「夙川橋」を紹介する。



写真1 国道2号に架かる夙川橋の橋名板

1. 夙川橋 あっちこっち-国道2号-

4つの夙川橋のなかで一番北に位置するのが国道2号に架かる「夙川橋」である（写真1・2）。この橋の親柱は、御影石で出来ていて金属製の橋名板（「橋銘板」とも表記するがここでは「橋名板」で統一）が埋め込まれている。親柱の高さは、石の部分だけで142cm、その上に約3mの橋灯がある（写真2）。この橋は、大正15年に架橋された。



写真2 国道2号に架かる夙川橋

2. 夙川橋 あっちこっち-香櫨園駅付近-

国道2号の夙川橋から川沿いに南に行くと、阪神電車の香櫨園駅に到達する。駅のすぐ南の道路は市道西946号で、ここにある橋の名前も「夙川橋」（写真3・4）。

ほっそりした橋灯のあるこの橋は、昭和9年の架橋で、コンクリート製親柱の高さは約180cm。親柱の上には約180cmの橋灯がある（写真4）。

車も通行する市道の夙川橋のすぐ北には、歩道があり、この歩道の橋もやはり「夙川橋」（写真5）という名前である。



写真3 (上) 市道西946号の夙川橋

写真4 (右) 市道西946号の夙川橋の親柱



歩道の橋は、平成15年に香櫨園駅のリニューアルの際に乗客の安全の為に架けられたものと推測される。

車が通行する橋とそうでない橋がある2つの道は、明らかに別個の道であるが、西宮市が作成している橋梁台帳をみると、同じ市道西946号にある橋として管理されていることがわかる。写真6は、この歩道の橋の親柱である。コンクリート製で、高さは100cm、真鍮製の橋名板が設置されている。



写真5 市道西946号の歩道

3. 夙川橋 あっちこっち-国道43号-

4番目の「夙川橋」は、国道43号にある橋である。国道43号の車道には、親柱も欄干もないが、南北両側に広い歩道がある(写真7、9)。写真9は、国道43号の南側、すなわち下流側の歩道である。北側の歩道と合わせて一つの橋(道)とみなしているようで同じデザインの欄干が設置されている。幅の広いこの橋に親柱は見当たらない。

国道43号の橋の上流側の欄干に「夙川橋」、下流側の欄干に「しゅくがわはし」の橋名板がそれぞれ設置されている(写真8・10)。



写真6 歩道の橋名板



写真7 国道43号北側の歩道



写真8 北側歩道の橋名板



写真9 国道43号南側の歩道



写真10 南側歩道の橋名板

4. なぜ、同じ名前がいくつも？

なぜ、同じ橋の名前を何か所にも使用するのか、については橋を管理している国・県・市で別個に管理されているためと思われる。しかも、同じ国の管轄でも、道が違えば同じ橋名を使用しても混乱は生じないのだろう。それには、基本的に橋の管理は、道路関連の所管課が担当することが大きいと考える。

なお、私の調査時点では、「夙川橋」は以上の4つだったが、後日、地図を見ると5つ目の「夙川橋」が海上にあった。その所在地は、阪神高速5号湾岸線の側道・県道芦屋鳴尾浜線（573号）の夙川の先の海にあるが、親柱も橋名板もないので、ここでは対象外とした。

【追記】本稿は、平成29年（2017年）3月に実施した西宮歴史調査団活動報告会にて報告した内容に加筆・修正したものです。掲載写真も報告時のものですので、現況と異なる場合があります。

西宮歴史調査団は、団員に登録した市民が主体となって、西宮市内の文化財を調査し、記録を作成する文化財調査ボランティア活動の団体です。西宮市立郷土資料館が主催しています。

西宮歴史調査団ニュース第10号 令和元年（2019）8月10日